

情報公開拒否を続ける「放送大学、同長野同窓会」

放送大学に生涯教育を任せられるか——安倍政府は加計学園の情報公開拒否に躍起となっていたが、ついに、開示に応じた。ところで、国がこれからの生涯教育の為に設立した放送大学並びに(長野学習センター)同長野同窓会に対して、山崎は平成26年5月から情報開示の請求を出している。それに対し、同長野同窓会は3年にわたり情報開示拒否をし続けている。又、放送大学もきちんと回答していない。助成金は税金であり、放送大学の審査の元、支給され、同窓会は報告書を同大学に提出しているの、放送大学には回答する責務が生ずる。

ある捜査機関に相談すると「同じタライの中では解決が出来ないのです」と言った。そういえば、事が動いたのは文部省に訴えた時のみである。捜査機関の知恵に感服した。より良い社会形成の為に、「情報公開拒否をして難なく逃げ切った」とする人の再生産を許してはならないので、監査として公表する事とした。(筆者:山崎たつえ放送大学学生・同長野同窓会元監査)

情報公開請求の経過レポート

26年5月、筆者は監査をして長野同窓会に放送大学から交付されている「助成金の使途に問題あり」とし、関係書類の情報公開を求めた。が…。

1. 拒否を続ける会長

吉池会長は、関係書類の提出を頑なに拒否し続け、3年の月日が経つ。吉池会長は「書類の開示をせよ」という放大同窓会全国連合会の忠告にも耳を貸さない。

助成金は国民の血税なので山崎は文部科学省に相談(27.2月)。その結果、27年5月山崎に書類が送付されてきた。(但し24年度25年度の一部書類がない。この件については『3. まだ、隠している書類』を参照)。届いた事業報告書を、山崎は調査分析し、びっくり仰天した。吉池会長は放送大学からの助成金を「会員にも知らせず、会長夫妻を軸に一部の人で使用」していた。特に会長の夫については役員でもない。これが書類拒否の真相だったと判る。

2. 会長の取った行動

27年4月吉池会長は山崎に「行政庁とは関係がない。品位に関わる」と内容証明付きの手紙をよこした。文部科学省が動いたと言う事は、関係があるから動いたのである。

又、27年10月吉池会長は全国の同窓会連合会報に「長野同窓会も私も何も悪い事はしていない」と書く。会員に知らせず、一部会員で使用している事は、とんでもなく悪い事である。又、情報公開拒否は、この上もなく悪い事である。

この時、一部、会員には経過を知らせた。すると、その後から、同窓会会員名簿の住所、連絡先を非公開にした。同窓会は会員の交流が目的ではないか。

3. **まだ、隠している書類がある**——2012(24)年2月実施事業並びに2012(24)年4月に入学卒業時事業の報告書が出ていない。公表しては困る事が書かれていると推測する。そこで再度、長野同窓会に提出を依頼するが書類が未だない。**28年11月文部科学省に再度相談する。**同省は「放送大学に正式に『情報公開請求をするように』」と言う。その手続きをすると29年2月になり、放送大学から報告書がくる。しかし、次の如く多くの問題が見つかり、放送大学に再提出を求めている。2012年2月の事業について**8名の金額が一括記入となっている。交通費を使用した氏名、使用駅名がない。今までのすべての書類は個人名が公表されていた。なぜ、公表しないのか。**又、2012(24)年4月実施事業の報告書が出てこない。

4. **更に、次の問題も明らかになる。**

● 2013(25)年3月20日 松本市で私の代表である放送大学学生サークルが講演会を主催した(どの学生サークルも自費を投じて開催している。交通費など出ない)。その折、吉池会長等と取巻きの人が講演会を聞くだけに来た。監査の折、私は、その時に多額の旅費が出されている事に気がついた。会計は「大学からの助成金より出した」と説明した。その時の事業報告がない(金額、氏名、乗車駅間が不明)。**実は、この時、山崎は放送大学から助成金が来ている事を初めて知った。又、一般会員は、助成金の来ている事を知らされていない。会長他、一部の人で、この旅費を使用していたのである。**

● 2014(26)年1月11日諏訪市で実施した事業で竹内○氏はオルガンをもってきて会場でひいた。長野市から諏訪市まで車でオルガンを運んだが、**特急料**が払われている。車で来るのに特急料は不要なはず。返還と謝罪を求める。

● 2014(26)年1月11日諏訪市で実施した時、吉池長野同窓会長は交通費を不正に受け取っている。同窓会連合会へは返還したようであるが、長野同窓会の会計処理もなされていなければならない。その関係書類の開示を求める。又、吉池会長は岡谷駅から上諏訪駅間の**8分の乗車の特急料510円**を受領している。なお、前日は準備であり時間の制約はなかった。(なお、その他にもう一人調査中)。

4. **情報公開拒否問題を振り返って**—— この問題の最後の責務は放送大学である。しかし、その運用は**同同窓会全国連行会**に依頼している。同同窓会全国連合会は「情報公開開示をせよ」と吉池長野同窓会長に再三、強く忠告したが、吉池長野同窓会長は拒否した為、同窓会全国連合会は手を焼いていたと聞く。吉池会長は「夫に多額の旅費が払われている事。会員に知らせず、一部会員で助成金を使用していた事」を隠したかったのであろうか。このような場合は、放送大学は最高責任者として「そのような同窓会への助成金打切り」をするなど処置を取るべきではないか。国は加計学園の情報公開を巡って、揺れている。情報公開は国を動かす位、重要である。金の使い道が正しいか、否かは書類が全てを語るからである。

長野同窓会では会長と共に、会員に言わず、公金を使用した人たちが、**今も、主な役員に居座り続けている。**この国と同じ姿が、地方の末端でも行われている。それを是正するのが**放送大学ではないか。監査として今後の動向を見つめて行きたい。29.6.19**